

林木ジーンバンク事業の方針の骨子

現行の戦略

(2) 林木遺伝資源保存の推進

① 林木遺伝資源の収集・保存

絶滅危惧種・天然記念物等で保存の緊急性の高いものや育種素材として利用価値の高いもの等の収集・保存

生物多様性の確保と新品種開発による多様な森林整備へ貢献

② 林木遺伝資源の特性評価及び情報管理等

林木遺伝資源の生理・生態的特性及び利用上の特性調査・評価、データベースの整備・管理、試験研究用としての遺伝資源の配布の推進

森林・林業分野の研究を通じて多様な森林整備等に貢献

「森林・林業・木材産業分野の研究・技術戦略」
(H24年)

検討のポイント

○ 今後の林木ジーンバンク事業の推進方向の鮮明化

「森林・林業・木材産業へ役立つジーンバンク事業」

- ・活用度の高い樹種に重点をおいた新たな収集、保存
- ・収集済み遺伝資源の活用促進
- ・活用に直結する特性評価

○ 政策ニーズを反映

- ・森林整備に資する優良種苗の新品種開発等への貢献
- ・未利用な多様な樹種の有用化の推進
- ・山村の活性化への貢献
- ・生物多様性の確保の推進

方針の骨子

はじめに

林木ジーンバンク事業で実施する重点課題等

遺伝資源はその本体である「生物資源」と「情報」で構成されており、「生物資源」の収集、増殖、保存に重点をおくものと「情報」の収集に重点をおくものとに類別

(1) 主要樹種の育種素材の補完

- ・新たな育種素材の確保
- ・収集済み育種素材の活用推進

(2) 有用樹種の新需要の創出への貢献

- ・生息域内保存情報の集積
- ・機能性成分等新たなニーズの高い遺伝資源の確保

(3) 脆弱な希少遺伝資源の保全

- ・絶滅に瀕している樹種等の確保
- ・気候変動により絶滅リスクの高まる集団等の保存

(4) 遺伝資源情報のネットワーク化

- ・関係機関との連携と情報共有
- ・日本林木遺伝資源DBの構築

事業成果の社会への還元